

令和2年度 学校自己評価表 (計画段階) ・ 実施段階

68

福岡県立伝習館高等学校長 印

学校運営計画（4月）		評価（3月）		
学校運営方針	<p>【伝習館の精神】 (1)「立花の義」人を大切に、決して裏切らない (2)「三稜精神」知・徳・体の調和のとれた人であれ (3)校訓「明朗・誠実・剛健」と校是「志・鍛・挑・和を以て誇りとなす」</p> <p>【伝習館教育の基本】 3T「大切に育てます。丁寧育てます。挑戦する心を育てます。」</p>			
昨年度の成果と課題	<p>重点目標</p> <p>(1) 学力を向上させる ア イマージョン教育の活用 イ 日本語4技能の強化 ウ STEAM教育の研究・試行</p> <p>(2) 人間力を向上させる ア 生徒主体の大運動会、三稜祭による社会情動的スキルの育成 イ 掲示教育等による倫理観の育成 ウ 「絆づくり」「居場所づくり」</p> <p>(3) 教師力を向上させる ア 研究と修養 イ 規範性のある言動 ウ 授業法と教材の研究</p>	<p>具体的目標</p> <p>(1) 学力を向上させる ア イマージョン教育の推進を図りグローバルに思考できる人材を育成する。 イ 日本語4技能の強化など言語活動の充実を通して、論理的思考力の向上を目指す。 ウ STEAM教育の研究・試行を行い、創造性や審美眼など哲学的素養を持った人材育成を図る。</p> <p>(2) 人間力を向上させる ア 生徒主体の大運動会、三稜祭によって人間力を高め、社会情動的スキルの育成を図る。 イ 学年ごとのメッセージを発信するなど掲示教育等による倫理観の育成を図る。 ウ 生徒相互の絆づくり、集団における生徒の居場所づくりのため適切な声掛け・場の設定等に心がける。</p> <p>(3) 教師力を向上させる ア 高い倫理性を保ち道徳性を高めるための研究と修養に努める。 イ 隠れたカリキュラムの主体者である意識を持ち生徒に対するローモデルたるべく規範性のある言動に心がける。 ウ 教育改革の流れの中にあって教科指導における不易と流行を捉え効果的な授業法教材の研究を行う。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務部	教務課	新学習指導要領の実施を見据え、生徒の基礎学力及び思考力を伸ばすことができる教育課程を編成する。	学校経営会議や教育委課程編成委員会を通じて、本年度中に新教育課程を作成する。	
		さらなる授業改善を進め、生徒が主体的に学ぶ授業スタイルを確立する。	観点別評価の手法を確立させ、新しい指導要録の様式に対応できるようにする。 総合的な探究の時間の実施計画と見直しを進め、生徒自身で課題を設定して解決策を考えるような時間にする。	
		統合型校務支援システムの円滑な導入を図り、校務の効率化及び業務負担の軽減につなげる。	全教室に配備される電子黒板の効果的な使用法についての説明会や研修会等を企画する。 既存のICT機器の維持管理や消耗品の補充に気を配り適切な授業支援に努める。 学力向上学習会等を通じて、学習でつまづきを感じている生徒への支援を確実に行う。	
	庶務課	学校行事を円滑に進めるよう運営する。	行事運営の可視化を行い、より少ない人員でも柔軟に運営できるようにする。 学校行事に対する生徒の心構えや目的意識を明確にする。 問題点を共有するために責任者会議、係会議を有効に活用し、全体の意思疎通を行う。	
		読書センター、学習センター、情報センターとしての図書館機能の充実を図り、より多くの生徒が活用できるようにする。	「朝の読書」の推進、「図書館便り・新着図書紹介」などの発行を行い、生徒の読書意欲を喚起する。 定期的に変書を行うことで、蔵書の充実を図り本校にふさわしい書籍を購入する。 教科や学校行事に合わせた館内展示を行い、生徒の学習支援を行う。	
		父母教師会活動をより充実させ、保護者と学校との関係を密接にする。	P T A行事の手順は職員との事前の打ち合わせをして、円滑に行えるようにする。 職員にP T A行事への協力体制をより構築する。 マメール（学校緊急メール）を、P T A行事の連絡など有効に活用し、迅速な対応を図る。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
教務部	広報課	地域、中学生やその保護者などに本校の特色を理解してもらえるよう、学校案内やHPを通して広報活動を活性化させる。	HPに学校行事・学年行事や部活動報告を数多く掲載する。			
			学校案内の作成を早めて7月中までに配布できるようにし、早い時期から本校の良さをPRする。			
			分掌・学年・部活動ごとのHP更新担当者に多くの情報を発信してもらい、HP更新の頻度を上げる。			
		オープンスクールや各種説明会で、本校の教育活動への理解を深めてもらえるような手段や方法を考案・実施する。	オープンスクールやミニオープンスクールを複数回開催し、参加者数のべ550名を達成する。			
			オープンスクール・ミニオープンスクールにおいて本校の魅力が実際にによりよく伝わるよう、本校生・卒業生の協力の下に中学生・保護者対象の行事を行う。			
			中学生の志望校選択の時期に合わせた内容のオープンスクール・ミニオープンスクールを実施する。			
	中学校や塾との信頼関係を深めるための定期的な中学校訪問や塾訪問を計画し、全職員への情報の共有化を図る。	中学校や塾の訪問の際には、その時に必要とされる内容の提案を行い、中学校や塾との信頼関係を深める。				
		中学校・塾対象説明会を開催し、本校の特色を伝えると同時に本校への要望や評価を採る。				
		他校の広報活動や志望者動向についての情報を収集し、本校の職員への情報共有を行う。				
	研修課	職員の研修意欲の高揚を図り、資質の向上に繋がる職員研修を企画する。	職員のニーズに応じた6回の職員研修会を企画・実施して実践的な指導力と資質の向上につなげる。			
			英語イマージョン教育を推進のための研修を支援するために研修会や教科の研修会を企画する。			
			キャリアアップ講座、予備校研修、各種研究会などの校外研修会へ複数の教員が参加できるように調整するとともに、研修内容を全職員に還元する。			
職員の人権に関する意識を高め、人権同和教育の推進を図る。		学年ごとに生徒の実態把握に努め、それに応じた人権・同和教育指導案の検討を行う。				
		生徒、保護者、教員の人権意識の向上を図るため、父母教師会と連携して人権講演会を実施する。				
		学校不適応や心理的葛藤を抱えた生徒への支援態勢を整える研修を複数回実施する。				
若年教員研修会、中堅教諭等資質向上研修会、エキスパート教員研修会を支援するとともに、教育実習の運営を確実に行う。	若年研、中堅研、エキスパート研の基本研修の企画および報告文書等の作成を確実に行う。					
	主任主事訓話や若い教員の体験談等を通して、教員を目指す意思がより高まるような教育実習を企画する。					
	教育実習に関する連絡や調整を行うとともに、報告書等の作成を確実に行う。					
進路指導部	進路指導課	高い志に向き合い、挑戦する心を育成する。	よのなか講座を通して、職業観を育成し、高い目標を目指す。			
			進路講演会や大学出張講座を通して、国公立大学合格率100%を目指す。			
			外部模試及び外部検定に挑戦させ、更なる学力の伸長を図る。			
	基礎学力及び思考力を伸ばし、第一志望進路の実現を目指す。	育成する力に応じた講座制課外・スーパーセミナーを実施し、大学合格率100%を目指す。				
		学びの基礎診断で自己適性を知り、1年終了時までに自己進路を具体化させる。				
		マナビジョンポートフォリオを活用し、きめ細やかな個別面談を実施する。				
地域や保護者に信頼・期待される取り組みや成果を発信する。	進路の手引きを発行し、生徒、保護者のニーズに応える。					
	進路情報提供や入試問題の充実、小論・面接指導の充実を図り、教師や生徒に有効活用する。					
	地域、保護者、生徒の期待に応じた進路情報を発信する。					
生徒指導部	生徒指導課	伝習館スタイル（規律と品位）の確立と規範意識の維持向上を図る。	マナー教育を充実させ、端正な制服の着こなしを徹底する。			
			交通安全教育や登下校指導を通して、交通安全への意識向上の徹底を図る。			
			面談期間を通じて、生徒のサインを早期に見出し、いじめや問題行動の未然防止に努める。			
		生徒主体の大運動会、三稜祭による社会情動的スキルの育成を図る。	生徒会や実行委員会を中心とした定例会を実施し、生徒中心の企画運営とする。			
			大運動会については、「情熱・協働・自律」をモットーに取り組みさせる。			
			三稜祭において、校内ステージ発表・校内展示発表、一般公開の充実・発展を目指す。			
生徒会を中心とした各種活動の活性化を図る。	生徒会を中心にアゴラ集会を活性化させ、主体的生徒の育成を図る。					
	各種委員会の活動内容の明確化と取組の発信を行う。					
	部活動の活性化と地域の活性化に繋がるボランティア活動への積極的参加を促す。					

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
生徒指導部	保健課	心身の健康状態を把握し、健康管理・健康教育を充実する。	健康診断・身体測定の結果をもとに助言を行い、生徒の自己管理能力を育成する。			
			保健委員会の活動（保健だより）を充実させ、健康・安全に関する適切な情報を発信する。			
			体育的行事・学年行事の前に校医による健康相談等を実施し、事故防止に努める。			
		清掃活動や奉仕活動を通して、環境美化に対する意識高揚を図る。	日々の清掃活動を徹底しながら学習環境を「整美」する。			
			「美化週間」を学期に1回設け、美化委員会を中心に、掃除区域を自治で管理する体制づくりを図る。			
			他の委員会等と連携を図りながら、地域清掃ボランティア活動を年2回実施する。			
		健康的で、生きる力を持った生徒を育成する。	保健室利用状況等、担任・学年・分掌への連絡を密に行い、生徒の動向の変化を早期に発見する。			
			学年・教育相談委員会・スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒支援に努める。			
			健康教育推進事業等の実施を通して、個々に対するきめ細かな支援に努める。			
第1学年	基本的生活習慣を確立させる。	個人面談や未来手帳を活用して、高校生活への適応を支援する。				
		日常生活における生徒との関わりを大切にする中で、挨拶の励行、時間の厳守、掃除の徹底を図る。				
		学校行事や部活動への参加経験をとおして、伝習館生としての自覚を身につけさせる。				
	基礎学力の定着を図る。	予習、復習や課題等への取り組みを通じて、家庭での学習習慣を身につけさせる。				
		考查前期間を活用した学力向上学習会等の個別指導により、基礎基本の定着をはかる。				
		考查や模試の結果を分析して教員間で共有し、課題克服に繋げる。				
	進路学習を充実させる。	ポートフォリオ（個人評価）を活用し、興味・関心、自己理解を深め、適切な文理選択につなげる。				
		進路講演会や学年集会等を通じて高い進路希望が持てるように指導する。				
		進路研究やよのなか講座等の体験を通して、社会貢献や職業研究について深めさせる。				
第2学年	心身共に健康な生徒を育成する。	基礎・基本を土台とし、課題などを活用し発展的な学習へと繋げることができるように支援する。				
		教室などの学習環境を整備し、授業にしっかり集中することができるように支援する。				
		長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関との連携を図る。				
	豊かな人間性とリーダーシップ・フォロワーシップを発揮できる生徒を育成する。	学校行事や部活動で主体的に行動し、役割・責任を果たすことができるように支援する。				
		行事の企画・立案・運営を経験させ、主体性・協働性を養成する。				
		ボランティア活動などの協働的活動を推奨し、課題を発見し、解決するための能力を育成する。				
	高い志を持つ生徒を育成する。	オープンキャンパスなどで情報を収集し、高い進路目標を設定させ、その努力を学年団で支える。				
		修学旅行などの行事を通して、自分の在り方や生き方について真剣に考える機会を与え、将来の目標の早期設定を促す。				
		各教科で模試の分析を行い、生徒対象に日々の学習の仕方や注意点などの指導を行う。				
第3学年	健やかな生活を自分で整える力を養う。	規則正しい生活をし、心身ともに健康に過ごし、皆勤者100名を目標とする。				
		学年団で情報共有を常に行い、教育相談委員会との連携を密にし、最適な方法を考え、指導に当たる。				
		保護者との情報交換を行い、家庭と協力して健やかな生活が送れるように努める。				
	進路実現を通しての人的成長を促す。	難関大学（九大以上・医学科・薬学部）20名（理系15名・文系5名）、国公立大学100名の合格を目指す。				
		家庭学習時間は240分以上を確保し、第一志望校合格を目指し、粘り強く努力するように指導する。				
		学年団で進路指導に関する情報を共有し、生徒へのタイムリーな情報発信を行う。				
	伝習館生としての自覚を持った生徒の育成をする。	最上級生としての挨拶の励行、時間の厳守、制服の着こなしができ、下級生の模範となるようにする。				
		学校行事への積極的な参加を促し、リーダーとして必要な資質を学び、主体性や行動力を育成する。				
		自分の感情をコントロールしながら他者と協働し、目標を達成する力を育成する。				